

校内研究・研修計画

I 研究主題

情報を読み取る力を育てる指導のあり方

～国語科の説明的文章をを中心に～

II 主題設定の理由

(1) 現代的な課題から

情報化の進展に伴い、子どもたちの言葉を取り巻く環境は変化している。新指導要領の国語科の改訂の中に「情報の扱いに関する指導の改善・充実」として以下のような文章が載っている。

急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係をわかりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。いっぽう、中央審議会答申において「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と指摘されているところである。

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分の持つ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、このような情報の扱いに関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。

(2) 本校の学校教育目標から

本校の学校教育目標は「～小さな学校で、大きな夢を育む～大志を胸に、やさしく・かしこく・たくましく生きる神余っ子の育成」である。

【目指す教師像】

- 子どもの良さに気づける教師
- 明るく活力のある教師
- 高いプロ意識を持ち、授業改善・行事改革に励む教師

【目指す子ども像】

- 自分も友達も大切にできる子（豊かな心）
- 意欲をもって生き生き学ぶ子（確かな学力）
- 健康で丈夫な体を持つ子（健やかな体）
- 夢の実現に力強く挑戦する子（努力を続ける気力）

上記の【教師像】【子ども像】に向けて、教師同士で学び合う機会を意図的に設けていくとともに、本研究主題を設定することで、意欲を持って生き活きと学ぶ児童を育てていきたい。

(3) 昨年度の研究および児童の実態から

昨年度「情報を読み取る力を育てる」というテーマで取り組んだ。

一昨年の学力テスト等の結果をふまえ、文章を読んで理解する段階で全体や構成を捉える力、いくつかの情報を読み取って整理する力が弱いために、自分の考えを形成することが難しい子がいるという反省からである。自分の考えを持つためには、まず読み取る力をつけることが必要である。全国学力調査の中でも「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」についての課題がある。質問の趣旨が読み取れていなかったか、条件を整理できなかったためであると思われる。

このことから、昨年度は、文章の中から、必要な語句・挿絵や写真などの必要な情報を読み取ることで、文章の内容をより理解し、自分の考えをよりもてるようになることを考え「国語科の説明的文章の学習において方法や手順を示してあげれば、目的に応じた情報を読み取れるだろう」という仮説をたて授業実践を行った。また、授業実践をするにあたり、説明文を正しく読むために「方法・手順」を低学年から高学年と段階を踏んで

作成したが、これについても内容を見直し検討が必要と考える。

以上のことから、昨年度に引き続き「情報を読み取る力を育てる指導のあり方」を研究していく。

III 研究目標

説明的文章の中から必要な情報を目的に応じて読み取ることができる子どもを育成するための指導のあり方を実践を通して明らかにする。

IV 研究仮説

国語科の説明的文章の学習において、方法や手順を示してあげれば、目的に応じて必要な情報を読み取れるようになるであろう。

V 研究内容

- ① 情報を読み取るための方法や手順についての見直し
- ② 教科書の説明的文章の教材研究成績評価のための研修
- ③ 一人一実践の授業研究
- ④ 東書学力テストの分析、活用
- ⑤ 基礎基本の徹底について（チャレンジタイム・本読み計算の活用）
- ⑥ 成績評価のための研修
- ⑦ 来年度の教育課程に向けての各教科の年間計画の見直しと教育計画の作成

VI 研究の実際

理論研究

(1) 「小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 国語編」より説明的文章でつきたい力

	低学年	中学年	高学年
構造と内容の把握	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉えること。	事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
精査・解釈	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
考えの形成	文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

(2) 説明的文章を読むときの方法または手順

本校において定めた方法または手順は以下の通りである。

低 学 年	1	音読する ○文章をスラスラと読めるようにする。
	2	形式段落に番号をつける ○1字下がっているところを目安に①から番号をふる。
	3	問いと答えを見つける ○「～でしょうか。」「～のです。」文末表現に着目させる。
	4	イラスト・写真・図表と文(段落)とを対応させる ○線で結ぶ
	5	キーワードを探す ○題や繰り返し使われている言葉に傍線を引く。 ○順序を表す言葉(時間・事柄など)に傍線を引く。
中 学 年	6	各段落を要約する ○あらすじを20字以内にまとめる→小見出し(10字以内)
	7	接続語から段落相互の関係をつかむ→接続後を丸で囲む ○特に、逆接の接続詞と換言の接続詞には注意！ 次にくる文章の予測ができるようになる。 逆接：しかし・だが・ところが・けれども・等 ⇒ 筆者の主張 換言：つまり・ようするに・すなわち・等 ⇒ 段落の要約 理由：なぜなら・というのは・等 ⇒ 詳しい説明 例示：たとえば・いわば・等 ⇒ 具体例
	8	指示語が指すものを見つける ○指示語はほぼ前にあるものを指す。指示語より前から探させる。 話し手からの距離の違いが「これ」、「それ」、「あれ」。 単数と複数も意識させる。 指示語の指し示すものは名詞の形で答えるので文章の終わりを体言化する。 事実と感想、意見に分ける
高 学 年	9	文章構成をつかむ ○「全体→部分」「部分→全体」「始め・中・終わり」頭括型、尾括型、双括型
	10	グラフから原因・結果を読み取る ○タイトル(表題)、縦軸(単位)、横軸(単位)、出典、 変化(減少/増加/減少して増加/増加して減少/変化なし)
	11	文章全体の要旨 ○何について述べているのかを30字以内にまとめる キーワードやキーセンテンスを使う 指示語がキーワードを指すことが多い
	12	筆者の主張を読み取る ○文末表現から事実と意見に分ける ○事実を時系列に並べる
	13	筆者の主張に対する自分の意見を表現する。

VII 研修年間計画

期 日			内 容	備考	主な行事
4	9	月	第1回研究推進委員会 ・研究テーマについて ・研修計画について		
	23	木	第1回校内研修 ・今年度の研修について (授業研究会・要請訪問の計画)		
	30	木	第2回校内研修 ・成績評価研修		
5	7	木	第3回校内研修 ・基礎基本の徹底 (チャレンジタイムのもち方)		
	14	木	第4回校内研修 ・情報を読み取るための方法や手順		
	28	木	第5回校内研修 ・計画訪問について		
6 7	4	木	第6回校内研修 ・個人研修(計画訪問のための指導案作り)		
	11	木	第7回校内研修 ・個人研修(計画訪問のための指導案作り)		
	25	木	※計画訪問予定		
	9	金	第8回校内研修 ・AEDの研修について		
	20	月	第9回校内研修 ・夏の研修について ・指導案の形式について 【夏休み中に指導案作成に取りかかる】		
8	21	金	第10回校内研修 ・成績関係(処理の仕方) ・2学期以降の研修の見通し		
9	10		第11回校内研修 ・授業研の指導案検討:授業構想についての話し合い。 (第1回~第3回の授業研について)		
10	1	木	第12回校内研修 ・成績処理について		
	8	木	第13回校内研修 ・国語の授業について		
	29	木	第14回校内研修 ・第1回国語科授業研 (要請訪問 三浦貴子指導主事) 校時 年 校時 年		
11	5		第15回校内研修 ・第1回授業研を振り返って		

1 1	1 2 2 6	木 木	第 1 6 回校内研修 ・ 第 2 回、第 3 回の授業研の準備 第 1 7 回校内研修 ・ 第 2 回国語科授業研 (要請訪問 三浦貴子指導主事) 校時 年 校時 年		
1 2	1 0 1 7	木 木	第 1 8 回校内研修 ・ 第 3 回授業研 (要請訪問 関口洋平指導主事) 校時 かえで学級 第 1 9 回校内研修 ・ 1 年間のまとめ		
1	2 1	木	第 2 0 回校内研修 ・ 次年度教育課程に向けて作成 (各教科年間計画作成) (各教科教育計画作成)		
2	4	木	第 2 1 回校内研修 ・ 次年度の方向性 ・ 研究のまとめ (令和 2 年度『研修のあしあと』)		